

## 「みえの現場・すこいやんかトーク（名張市）」の概要

10月11日（火）に名張市防災センターで、「みえの現場・すこいやんかトーク」を開催しました。

名張市では、平成7年ごろから市内のいくつかの地域で自発的なまちづくり活動が始まり、平成17年度に「名張市自治基本条例」が制定され、現在、地区公民館単位を基本とした15地域で地域づくり組織が活動しています。

それぞれの地域では、地域の課題解消に向けた取り組みや地域住民の交流、絆づくりなど、地域ごとに特色ある事業を展開しています。

今回は、それぞれの地域の代表15名の方にお集まりいただき、具体的な事業内容や事業の成果などについてお話をお伺いしました。



### 【参加者の発言】

参加者の皆さんから、以下のような意見をいただきました。

県外からの転入者が多く、地元に関心を持たない住民も多くいることから、地元に関心を持ってもらえるよう身近な名張を知る、学ぼうとするふるさと運動に取り組んでいる。

地域の福祉活動が継続できるよう、そのための原資を確保する目的で、有

償ボランティアを募って、草刈などのコミュニティビジネスに取り組んでいる。

地域のビジョンを策定しているが、次世代に送る文化という意識が希薄だったように思う。「この地域に住んでいることが自慢できる」これだけのことだが、大変重要である。

自治会活動への関心が低かったことから、アンケートを実施し住民のリクエストの多いものを優先的に実施している。住民の要望を実施することで、住民に意識を持ってもらい、身近に感じてもらうよう取り組んでいる。

過去に実施していた地域運動会を復活させることになったが、当時の中止になった原因（高齢化による参加者の減少）を、何も解決せずに実施しようとして、選手集めに苦労した。そのため、名称を「スポレク祭り」と変更し、高齢者も参加しやすいようレクリエーションの要素を多く取り入れたところ、各地域から多くの方に参加してもらうことができた。

路線バスの廃止に伴い、コミュニティバスの運行を始めたが、交通弱者の利便性を向上するため、運行コースの拡大を検討している。

高齢者移送サービスに取り組んでいるが、道路運送法による制限も多く、交通弱者へのささやかなサービスが提供できるよう法律改正を期待している。

地域づくり組織を立ち上げたことで、住民とも親密になれて良かったと思っている。



## 【知事の発言】

知事からは、以下のような発言がありました。

ここに住むことが自慢できるというシンプルなことだが共感できる。三重県に住んで良かったと思ってもらえるよう、どうやって地域の文化を生み育てていくか、次世代にどう繋げていくか、取り組んでいきたい。

行政の立場で言うと金がないから出来ないと言い訳をする。金がないなら知恵を出して、汗をかいてできることもある。

原因を解消せずに、事業を継続することは行政にもあるので、税金をいただいて事業を実施している以上、徹底的に原因を解消できるように取り組んでいきたい。

こういう政策をやりました、こういう事業をやりましたと「やりました、やりました」ばかりで、その結果はどうであったか。本当に県民の皆さんに成果が、果実が届いているのか、それにこだわっていきたい。

地元のことを好きである割合が高いほど、観光客も多く、満足度も高いというデータもある。地域の誇り、愛着を持ってもらう取り組みは大事であり、郷土教育にも力を入れていきたい。

インフラなどの生活環境が整っている先進国に住んでいる人々の幸せ度は必ずしも高くない。幸せとは、誰かに与えられるものではなく、自分で目標を設定しそれに向かって頑張っていく中で、実感をしていくということ、それから震災等を踏まえて大切だと思うのは、誰かの役に立つ、自分の存在価値がある、自分の存在に意味があるということを感じられることも幸せにつながると思う。